

平成20年度 学校自己評価システムシート (県立熊谷商業高等学校)

目指す学校像	学習意欲と自立心・自制心を高め、行動力・実践力のある生徒を育成する
--------	-----------------------------------

重点目標	1 本校の魅力を知り、意欲と適性のある生徒募集に取り組む 2 基礎、基本を重視した、きめ細かなわかりやすい授業を推進し、学習意欲の向上に取り組む 3 基本的な生活習慣の確立と、生徒の自主的活動の充実を図る 4 生徒の進路希望実現に対応した、継続的・体系的な進路指導に取り組む 5 地域や保護者等の信頼に応える学校づくりに取り組む
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	9名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 9 日 現 在)			
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	
1	<p>地域の中学生数が減少していることに加えて、本校の魅力が十分に中学生等に伝わっていないことから、生徒募集(特に情報処理科)に苦労している。</p> <p>本校に入学したい意欲と適性のある応募者によって募集定員を超えることが課題である。</p>	生徒募集への取組	<p>①中学生向けの「学校グランドデザイン等」の配布やHPの更新回数を増やし本校の魅力をアピールする。</p> <p>②適切な時期に中学生に対し学校説明会や体験入学を5回実施する。</p> <p>③中学校等の訪問を全教員で分担し訪問回数を増やす。</p> <p>④学校説明会等に在校生による説明の場を設ける。</p>	<p>①中学生向けの「学校グランドデザイン等」の配布回数とHPへのアクセス回数が昨年度より10%増やせたか。</p> <p>②体験授業や説明会に参加する中学生の人数を10%増加できたか。</p> <p>③中学校等の訪問回数が昨年度より増加したか。</p> <p>④中学生へのアンケート結果より、本校への理解度が高まったか。</p> <p>⑤前期募集において、総定員数の1.2倍の応募があったか。</p>	<p>①中学生向け「学校グランドデザイン」「熊商だより」の発行は、増やすことができたが、HPへのアクセス数は昨年とほぼ同様であった。</p> <p>②説明会等への参加人数は、全体で12%増加した。</p> <p>③全教諭による中学校訪問回数は、昨年と同様であったが、管理職の訪問回数が増えた。</p> <p>④中学生へのアンケートから、本校に対する理解度が高まったことがうかがえた。</p> <p>⑤前期募集では、総定員数の0.96倍であった。</p>	B	<p>①中学生向け「学校グランドデザイン」「熊商だより」やHPの内容を更に充実させるとともに、配布方法等も工夫・改善していく必要がある。</p> <p>②説明会の参加人数は増加したが同一生徒が複数回参加しているため、実参加数の増加が図れるような工夫・改善する必要がある。</p> <p>③中学校訪問の回数と説明内容について検討し、必要情報提供の時期と内容を充実させる工夫が必要である。</p> <p>④アンケートの質問事項を必要情報収集の観点から順次改訂する必要がある。</p> <p>⑤前期募集で総定員数の1.2倍の応募を集められるような更なる方策を全教職員で考え取り組む必要がある。</p>

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成21年 2月20日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>今年度の前期募集の際、本校への志願者が、総募集人員に満たない状況であった。</p> <p>学校として、本校だけで開催していた学校説明会や体験入学を通学可能な地域で開催する。また、「専門高校の特色」や「熊谷商業高校のPR」の内容や方法の見直しを考える。具体的な意見は、</p> <p>①学校説明会や体験入学への参加人数や複数回参加する人数を増やす。</p> <p>②もっと広い地域に、学校説明会や体験入学を実施する。例えば、秩父方面からも多くの生徒が受検しているため、秩父線沿線や秩父市内で学校説明会や体験入学を開催したらどうか。</p> <p>③不況の下、公立高校志向の中学生が増えているはずである。また、専門高校への志向も増えているはずなので、効果的なPR方法の検討する。</p> <p>④本校出身の有名人や会社役員等を招いた学校説明会や体験入学を実施したらどうか。</p> <p>学校としても更に充実した取組となり、結果に繋がるよう、次に次のようなことを検討していきたい。</p> <p>①HPのより一層の改善</p> <p>②熊商のPR紙を地元自治会に配布回覧</p> <p>③秩父鉄道沿線(寄居)での説明会の実施</p> <p>④中学校PTAによる高校バス見学のコースに入れてもらうよう、積極的にPRする。</p> <p>⑤北部地区専門学校説明会の実施</p>	

平成20年度 学校自己評価システムシート（県立熊谷商業高等学校）

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価（2月19日現在）			実施日 平成21年 2月20日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
2	<p>基礎・基本を重視した「わかりやすい授業」の推進に力を入れているが、学期ごとの成績不振者数の延べ人数はここ数年横ばい状態にある。</p> <p>そこで、生徒一人一人の学習意欲を喚起し、自己の進路実現と結びつけた学習目標を設定でき、意欲的に学習に参加し、充実感の得られる結果が出せるようにすることが課題である。</p>	授業改善を始めとする学力向上に関する取組	<p>①基礎・基本を重視した「わかりやすい授業」の一つとして少人数・習熟度別授業等を展開する科目数を増やし改善を図る。</p> <p>②確かな学力の定着に向けて生徒が自主的に活動できる授業方法として、実践的・体験的な授業を取り入れ学習意欲の向上を図る。</p> <p>③教科担当と生徒、教科担当と担任との情報交換を密にし、徹底した学習指導を行うことにより学習意欲を向上させる。</p> <p>④検定前の学習密度を濃くするために、補習体制を整え、簿記検定週間も設ける。</p> <p>⑤家庭学習の習慣化につながる宿題や課題等の活用に向けて、各教科・科目単位で情報交換を行い、長期休業中の学習機会の提供を図る。</p>	<p>①少人数・習熟度別授業等を展開する科目数が昨年度より増加したか。</p> <p>②アンケート等を利用して、学習意欲の向上へつながる授業方法として、実践的・体験的な授業を取り入れた科目が昨年度より増加したか。</p> <p>③生徒に対するアンケート結果等から学習意欲が向上したか。</p> <p>④各種検定資格取得者数が昨年度より10%増加したか。</p> <p>⑤生徒に対するアンケート結果等により長期休業中に適切な宿題や課題等を活用できた教科・科目数が昨年度より増加したか。</p>	<p>①今年度は、新たに1年生情報処理科で2クラス3展開の習熟度別授業を取り入れ、成果を得ることができた。</p> <p>②生徒アンケート結果を見ると、専門科目において体験的・実践的授業を増やすことができた。</p> <p>③アンケートの結果では学習意欲の向上については大きな変化が現れていない。</p> <p>④補習体制を整え、簿記検定週間も設けるなどした結果、主な検定結果を昨年と比較すると、各種の検定合格者総数は10%増加した。しかし、一部の検定では昨年度を大きく下回った。</p> <p>⑤アンケート結果を見ると長期休業中に宿題や課題等を課す科目数は昨年とほぼ同様だった。</p>	B	<p>①教員の授業負担を考慮しながら普通教科、専門教科で習熟度別授業・少人数授業の導入を検討する必要がある。</p> <p>④専門科目だけでなく、普通教科においても実践的・体験的な授業を幅広く取り入れる必要がある。</p> <p>③各教科内で授業方法や計画の見直しを図り、「わかり易い授業」の実践を重ね、学習意欲の向上に向けた方策を検討する必要がある。</p> <p>④合格者が減少した検定については教科内で授業方法や計画について見直しを図り、合格者の増加に向けた検討が必要である。</p> <p>⑤学習意欲を向上させるために教科目標設定や課題等の内容について各教科で検討する必要がある。</p>	<p>アンケートの結果から70%程度の生徒は学力面や意欲面でも問題がない。残りの30%をいかに指導していくかが課題ではないか。このような生徒に対しての指導方法に次のような意見が出た。</p> <p>①わからない箇所を掘り下げて、その生徒のレベルに合わせた授業を展開する。「わかり易い授業」を展開することで、授業が理解でき、そうすれば、その科目に興味を湧いてくるはずである。</p> <p>②教科書をほとんどの生徒が持ち帰っていないため、自学自習の習慣が身につかないのではないのか。</p> <p>③商業高校の特色である資格取得により一層、力を入れてはどうか。</p>
3	<p>本校生徒の多くは、基本的な生活習慣が身につけているが、さらに徹底する余地がある。</p> <p>生徒の自転車乗車マナーに問題がある。</p> <p>近年、生徒の部活動への参加率が減少してきている。そこで、部活動への参加を奨励し参加率を上昇させる。</p>	生徒指導への取組	<p>①毎学期、保護者・生徒・教員で登校指導を実施する。</p> <p>②毎学期、服装指導を実施する。</p> <p>③交通安全講話により道路交通法の改正を周知するとともに、自転車の乗車指導を行う。</p> <p>④部活動の成績を学校新聞等に掲載などして賞賛と激励を行う。</p>	<p>①遅刻する生徒を20%減少させることができたか。</p> <p>②年間6回程度、服装指導を実施できたか。</p> <p>③自転車乗車マナーが向上したか。</p> <p>④生徒の部活動への参加率が昨年度より増加できたか。</p>	<p>①遅刻する生徒数を昨年度に比べると2%減少にとどまった。</p> <p>②年間の行事計画に組み込み、円滑且つ計画的に実施できた。</p> <p>③登校指導を年2回から3回に増やし全教職員で行った。また、交通安全教室を2回実施し、自転車乗車マナーが向上した。</p> <p>④部活動への参加割合が昨年度に比べて減少してきている。</p>	B	<p>①全教職員による遅刻防止指導を徹底するとともに、家庭の協力を得る努力が更に必要である。</p> <p>②日常的に校内、校外を問わず、服装規定の遵守を生徒に指導する必要がある。</p> <p>③交通事故がなくなる。事故の現状を分析し、交通事故防止指導の徹底を図る。</p> <p>④定期的な参加状況の把握を行い、積極的に参加を促す指導を行う必要がある。</p>	<p>おおかたの生徒はルールを守り、活発に学校生活を送っているようだ。しかし、「学校行事に参加しない」「勉強しない」「遅刻が多い」「部活を一生懸命しない」生徒も若干いる。生徒は学校行事等の授業以外の機会に人間的に成長するので、学校行事などをもっと盛んにし、生徒が成長する機会を与えてはどうか。</p>

平成20年度 学校自己評価システムシート（県立熊谷商業高等学校）

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価（2月19日現在）				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
4	<p>進路指導が学年単位で計画されており、そのために系統的な進路指導がなされていない。三年間の計画的な指導体制の整備が課題である。</p> <p>卒業後の早い時期に進路変更をする生徒がいる。したがって生徒の適性を的確に捉えた進路指導が課題である。</p> <p>進路に対する意識が希薄な生徒が多い。その対策として早い時期から進路に対する意識を高めることが課題である。</p> <p>進路に関する情報が少なく、生徒の進路選択に必要な判断材料が不足している。今後生徒、保護者にとって分かりやすい情報を整理統合し伝えることが課題ある。</p>	進路希望実現への取組	<p>①三年間の指導体制を整備する。</p> <p>②卒業生の追跡調査を実施する。</p> <p>③進路ガイダンスをさらに充実すると共に、引き続き進路見学会を実施する。 質を重視した進学を奨励し、生徒の適性を活かした就職指導を行う。 推薦入試の対策として小論文指導の体制作りを進める。 卒業生との懇談会を引き続き実施する。</p> <p>④指導記録として、三年間利用できる個人カルテを作成する。 進路資料のデータベース化を図る。</p> <p>⑤積極的な企業開拓を行う。</p> <p>⑥大学訪問等により、高大連携を進め情報の交換を行う。</p>	<p>①年度末において指導計画を検証し、評価が得られたか。</p> <p>②進路決定後のデータ整備・追跡調査の実施と検証によって進路変更件数が減少したか。</p> <p>③生徒の満足度調査及び保護者への情報提供により三者面談が円滑に行われたか。</p> <p>④進路情報管理システムの構築、指導室の整備が行われたか。 生徒の進路指導室利用数が増加したか。</p> <p>⑤安定的な求人数の確保がなされたか。</p> <p>⑥進学相談会への参加人数が増加したか。また、大学との情報交換により、大学への進学率が増加したか。</p>	<p>①生徒のアンケートの結果、7～8割の満足度を得た。</p> <p>②卒業生の葉書や電話で追跡調査を実施し、就職者の離職率が15%程度の高水準であった。</p> <p>③担任及び生徒、保護者に対して有用な情報を提供し、円滑な進路決定がなされた。さらに、企業アンケートを実施し、企業の求める人物像及び本校に対する認識度をデータとして得ることができた。また、その結果を全校集会を利用して生徒に伝えた。</p> <p>④生徒情報のデータ管理、進路指導室設置の各種進路情報の検索用パソコンの整備・進路別パンフレット・各種書籍の整備を行い、生徒の利用が増加した。</p> <p>⑤昨年度を上回る求人件数が確保できた。</p> <p>⑥大学等との情報交換を積極的に行った結果、指定校枠が昨年度より増加し、進学率も上昇した。</p>	B	<p>①9割以上の満足度を得られるように、さらに充実した内容を検討する。</p> <p>②離職率をさらに下げするために、離職原因に基づく対策を検討する必要がある。</p> <p>③担任及び生徒に対して一層の積極的情報提供と共に、講演会等を充実させ、進路意識を高める必要がある。 アンケートの結果を企業にフィードバックすると共に、求人開拓の一環として継続した情報交換を行う必要がある。</p> <p>④引き続き利用しやすい進路資料室になるよう整備する。</p> <p>⑤教職員による一層の求人開拓の実施が必要である。</p> <p>⑥大学・短大等に関する正確な入試情報を収集し、より綿密な進学指導を検討する必要がある。</p>
5	<p>学校行事への保護者や地域の人の参加が少ない。また、本校教育活動が、地域社会・保護者にあまり知られていない。</p> <p>学校行事に保護者等の参加者を増やし、本校の教育活動を知らせていくかが課題である。</p>	開かれた学校づくりの推進	<p>①学校行事等を地域の人や保護者に配布物やHPを活用して周知し参加を促す。</p> <p>②外部講師として、地域の人や保護者を招いて事業を行う。</p> <p>③公開講座の実施と部活動等で校外に積極的に行く。</p>	<p>①学校行事に出席した地域の人や保護者の人数が昨年度より10%増加したか。</p> <p>②地域の人や保護者対象の事業回数を現在より2回増やせたか。</p> <p>③公開講座を実施し、授業や部活動の地域行事への参加回数を昨年度より10%増やせたか。</p>	<p>①文化祭に来校者が15%増加したが、他の行事では昨年とほぼ同様だった。</p> <p>②例年の手話講習会や就職模擬面接の他、地域商店の協力で本校開発商品を製造した。事業回数は1回の増加であったが、講師の人数は増加した。</p> <p>③公開講座（漢文）を県民・地域対象の人に対して実施し、参加者人数が3倍となった。更に、商業（簿記・情報処理）講座を授業参観日の当日に実施したり、インターハイ「kizuna 活動」に競技補助・会場設営・広報活動に部活動・生徒会で協力した。地域企業や老人ホームでの演奏、駅での地域特産品や本校開発商品の販売参加回数を大幅に増加できた。</p>	B	<p>①各種学校行事に地域の人参加を促すために、通知文書等の配布を行う。</p> <p>②外部講師の活用のための予算的措置を含めた検討を行い、計画的に実施する必要がある。</p> <p>③公開講座を多くの教員で担当する体制を整える。生徒には校外における活動を更に奨励する。</p>

学 校 関 係 者 評 価
実施日 平成21年 2月20日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>「キャリアガイダンス」や進路見学会などが役立っているようだが、さらに進路指導を充実させるため、進路について相談したいと思っても、何を相談してよいか、誰に聞いたらよいかかわからない生徒に対しての指導も必要ではないか。</p> <p>進路相談室も改善されているようだが、1・2年生の利用が少ないので、利用の仕方等を説明し、生徒が気軽に訪れることができるようにしたらどうか。</p>
<p>「開かれた学校づくり」と「生徒募集」には強い相関関係があると思われる。今後は、本校のPRや専門高校PR方法の見直しを図ったり、新たなPR方法を実施することで「開かれた学校づくり」を更に推進できるのではないかと。</p>